

私たちは、自分の心の中を知っているのでしょうか？それを知らない事が暗闇だと聖書には書かれています。私たちが進むべき道が分からない、どうしたらよいのか分からない…結果、目先の事にとられてしまいます。自分が今どういう状況で何をしなければならぬのかを知らなければならぬにもかかわらず、私たちはそれから目を背けます。なぜなら怖いからです。だから本来見なければならぬ事を見ないで見なくても良い事に目を向けるのです。見なくても良い事とは「隣人との比較」です。いつも隣人と比較して劣等感・優越感を感じて喜びを得ようとしています。聖書には「正しい事に目を向けなさい」と書かれています。そして、神を見た人と人を見た人の話が書かれています。人を見る人は結果ばかりでプロセスを見ません。結果を得るためには何をしようとかまわらないと思うのです。しかし蒔いた種は刈り取らなければならないので悪い事をして得た結果なら一瞬にして消え失せます。私たちが見るべきものを失い、プロセスを軽んじ、しなければいけない事を見失うと大変な問題になります(創13:1～18)。アブラムとロトで住む地を選び別れる事になりました。その時ロトは人の目線で・目先にとられてソドムとゴモラを選び、アブラムは神の目線で荒地地を選びました。しかし、荒地地を選んだアブラムが神に祝福されました(14～17節)。そしてロトには一切祝福されていません。大切なのは神の祝福があるか無いかです。どんな状況におかれてもそれが神さまの目的を果たすためなら、どこへ行き何をしようとも必ず成功します(詩篇1:2・3)。しかしロトは目先に目を向け、結果、妻は塩の柱になり、住むところを追いやり、もっていた財産はみな失いました。ロトは以前にも目先にとられて財産を失っています。しかし神の目線で見ていたアブラムにより取り返してもらっていたのです。そしてソドムとゴモラが滅ぼされる時もアブラムの祈りによりロトの家族は逃げる事ができましたが、妻はまだ目先にとられて1度は失っていた過去に目を向け振り向いてはならないと言われた神の教えに逆らい塩の柱になりました。私たちはどうでしょうか？過去に目を向ける事が無いのでしょうか？目先の事に目を向けて本来神さまが選べと言われている事を選択できているのでしょうか？正しい決断をし、誤った方向に進むのではなく正しい方向に進みなさいと私たちに語られています。アブラムは人の目には厳しいが神に示された道を選んだ結果どうなったのでしょうか？今以上に豊かにされました。「持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです」(マタイ13:12)と書かれています。私たちが目先にとられて誤った道に進まないために①自分が見えていますか？を確認しましょう。自分が見えていますか？自分が見えずに人からの目を気にして外側ばかりを繕う事に目を向けていませんか？これが大切な事ではありません。結果、これがついてくるのです。神さまは私たちが豊かである事をいつも願っています。聖書の中で神に従った者はみな豊かにされています。しかし、神に祝福され選ばれたサウルでさえ目先にとられた結果は荒野で殺され死体は晒されました。同じ王のダビデも失敗を犯した王でした。しかしサウルと違い、目先にとられず、悔い改めをしたのです。「私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない」(詩篇16:8)とダビデは賛美しています。自分を見る事は自分の弱さを知る事です。自分の弱さを知る事で普通の人は辛くて逃げてしましますが、神さまを知る私たちは違います。神さまを前に置き頼ります。神さまに先に進んでもらえるので私たちは必ず勝利を得る事ができるのです。また、個人プレーをするなど語られています。(ローマ12:1～5) 私たちが生きた供え物になる理由はからだ(教会・神の家族)を守るためです。各器官(神の家族)がそれぞれの責任で行動しなければいけません。しかし私たちは神さまの計画を行動にうつそうとした時「自分は清い」「自分はやってる」「あの人がもうやってるから自分はやらない」と言うワンマン・個人プレーになる弱さにすぐ陥ってしまいます。こうなるとからだ全体(教会・神の家族)がダメになってしまいます。私たちがしなければいけない事は自分の事だけではありません。自分と共に歩んでいるからだ(教会・神の家族)があるのです。そのからだ(教会・神の家族)が最後にはゴールへたどり着くためにひとりひとりが豊かにされているのです。このそのからだ(教会・神の家族)で自分の働く時がいつ来るか分かりません。そのために自分をよく見て自分をよく知って備えておく事が大事なのです。また自分を見失って外側ばかりを着飾って②つますきの石になっていませんか？私たちがふさわしくない行動をしていると自分ではなくまわりの人がつますいてしまうのです。(ローマ14:14～17)何をするにも神の栄光が現されなければならない・人につますきを与えてはならないと語られています。私たちがどのような生活をしようが私たちの勝手ですがそれで誰かをつますかせるならそのような生活を送ってはいけません。神が愛した人をつますかせる…これほど大きな罪はないのです。「つますきが起ころのは避けられないが、つますきをもたらす者はわざわざいだ」(マタイ18:7)とイエスさまは言われています。自らをしっかりと見てつますきを与えていないかしっかりと確認しなければいけません。そして③感謝がありますか？①②のポイントができなくなる理由は感謝がないからです。自分が見えなくなると、自分の不足や足りないことばかりに目を向けて「自分さえよければ」となります。感謝のない人は自分の思うがままの行動をとります。しかし、感謝している人は自分が感謝に・ありがたかった事にこたえようとします。だから必然的にその人のすることは良いことでその人だけに留まらず、まわりの人みんなが幸せになるのです。感謝していれば自分がどうこたえるべきなのかが分かります。感謝をあらわした後に自分の喜びを得ることができます。しかし感謝を忘れていると、自分のためだけに行動します。人をだまし、偽り、奪ったりするのです。結果恨みをかきます。だから、自らの喜びを得ることが無く全てが取り去られます。イエスさまの愛は無条件です。自分のための愛はひとつもありません。私たちはどうでしょうか？イエスさまの愛が心にあるのでしょうか？それがあればたとえ裏切られようと謗られようとも全てのことに感謝できるはずです。それがイエスさまが私たちにしてくださったことだからです。だからイエスさまと共に歩んでいれば私たちの人生はどんな状況になっても先に感謝がでできます。すると結果感謝の恵みがあふれるのです。悪魔はその恵みを奪おうと必死です。他人と比較させたり自分を見失わせて恵みを奪おうとするのです。だから私たちはこれをしてはならないのです。目先の事にとられていませんか？一時のことに目を向けていませんか？神さまが与えてくださった本当の恵みを大事にしているのでしょうか？私たちは1人ではありません。私たちが孤独でないと言うことは責任が伴います。私たちと一緒にいる人がいるのです。だから自分の思いで自分勝手な行動をとってはいけません。自己満足のための行動は止めなければいけません。目先の事にとられていってしまうのです。だからぜひ自分を見つめ直し過去を振り返り、「神に受け入れられる、聖い、生きた供え物」(ローマ12:1)として、正しく歩めるように心の一新によって変えていきましょう。(ローマ12:2)(要約者：行司佳世)